天理大學附屬天理參考館參訪記

天理大学附属天理参考館訪問記

일본천리대학부속 천리참여관 방문기
Visiting the Tenri University Sankokan Museum

文｜陳文玲（政治大學民族學系助理教授）
日本語翻譯｜石丸雅邦・山西弘朗

今年年初，政大原住民族研究中心平埔文物研究計畫的研究團隊到日本進行訪問。目的是瞭解在日本有哪些地方收藏有平埔族的資料。以台灣原住民族的收藏來說，所知以國立民族學博物館及天理大學附屬天理參考館的收藏是數量較多的。因此這趟行程以這兩所博物館為主要拜訪對象。

天理教台灣傳道廳長相助

行前一個月先拜訪過在台北的台灣天理教傳道廳三濱善朗廳長，他瞭解我們要去日本訪問天理參考館的目的之後，十分熱心主動地與天理教本部聯絡，安排我們在天理參訪的住宿及參觀行程。

2月9日白天我們在名古屋拜訪完南山大學之後，兼程趕到位於日本古都奈良縣的天理市。晚上七時半抵達天理時，車站外面是接近零度的低溫下著毛毛細雨，來接我們的天理教海外部專員井手勇、奧谷道弘兩位先生，老遠就在向我們招手，頓時讓我們感到無比的溫暖。井手與奧谷兩位先生都是曾到台灣留學，並且都很熱愛台灣，他們的中文都說得極好。海外部為我們安排的據說是天理市裡最好的詰所（註1）。

今年初め、政治大学原住民族研究センターが委託を受けた平埔文物研究計画の研究グループは日本を訪問した。その目的は日本のどこに平埔族の資料が収蔵されているかを確認することである。台湾原住民族のコレクションについては、国立民族学博物館と天理大学附属天理参考館のコレクションが量的に比較的多いことがよく知られている。そのため今回の調査ではこれら二ヶ所の博物館を主な訪問先とした。

天理教台湾伝道庁長の協力

訪問の1ヶ月前にまず台北にある天理教台湾伝道庁の三濱善朗庁長のもとを訪れた。三濱庁長は我々が天理参考館を訪問する目的を理解して、とても親切に自ら天理教教会本部と連絡を取ってくださり、我々が天理を訪問する際の宿泊施設と参観日程を調整し、手配してくださった。

2月9日の日中に、一行は名古屋の南山大学を訪問し、その後引続いて日本の古都奈良県の天理市に向かった。夕方7時半に天理に到着。駅の外では零度近くの寒さに加え、こぬか雨が降っていた。出迎えにきてくださったのは天理

政大原住民族研究中心

岸裡大社土官潘氏家族：潘敦仔之子潘士興像。
岸裡大社の土官・潘敦仔の息子である潘士興の肖像画。
（圖片提供：天理參考館）

岸裡大社土官潘氏家族：潘敦仔夫人像。
岸裡大社の土官・潘敦仔の夫人の肖像画。
（圖片提供：天理參考館）

隔日一早，我們依照天理教的安排，首先到天理教本部的神殿參拜。井手先生在大殿裡親切地說明天理教的歷史及禮拜的方式，並帶我們參觀。隨後，我們轉往天理參考館拜會了山田常則副館長，並見到了天理大學下村作次郎教授等人。下村教授曾主編過台灣原住民文學的一系列翻譯出版，對台灣原住民文學的傳播貢獻良多。

「天理參考館」（略稱「參考館」）是天理教第二代教主（天理教尊稱教主為「真柱」）中山正善先生所設立的。根據館方人員告訴我們，最初設館的動機是為了讓天理教的人員到海外佈教之前，可以先在日本國內藉由這些物品的陳列及研究，多瞭解一點當地的民俗文化，而不是為了蒐羅有價值文物而進行的蒐藏，所以不稱為「博物館」而

教海外部部員の井手勇氏と、奥谷道弘氏のお二人で、遠くから私達に手を振ってくださり、すぐに我々はこの上ない温かさを感じた。井手、奥谷両氏はともにかつて台湾に留学したことがあり、台湾を心から愛し、彼らの中国語は非常に流暢だった。海外部が我々に手配してくださったのは天理市内で最も良い詰所だということだった（注1）。

翌日早朝は天理教本部の手配で、まず天理教本部の神殿を参拝した。井手氏は神殿の中で親切に天理教の歴史と礼拝の方式を説明し、我々の参観に引率してくださった。その後天理参考館へ向い、山田常則副館長と面会した。そして天理大学の下村作次郎教授などとお会いした。下村教授はかつて台湾原住民文学シリーズを編集し、翻訳出版したことがあり、台湾原住民文

政大原住民族研究中心

是稱「參考館」。近一世紀之前由各地採集來的這些民族學文物，在星移月轉之後在當地早已不復見。這些藏品在參考館的保存與研究之下，其中有些文物已成為珍貴的民族文化資產。參考館除了收藏他們本國的民族學資料之外，國外蒐集範圍包括有：朝鮮半島、中國、台灣、東南亞、美拉尼西亞、密克羅尼西亞、玻里尼西亞（南島）、澳洲、南亞、中亞、北亞、西亞、非洲、美洲、歐洲等地域，數量約有3萬餘件。其中，台灣原住民文物有1,804件。這次我們主要是訪查其中平埔族文物。

遇見天理參考館的平埔巴宰族文物

參考館海外研究室的研究人員太田三喜先生在我們到達前，已把數十件屬於平埔族的文物從庫房裡搬到一間大房間，讓我們可以在裡面進行工作。下村教授與我們一起看文物時，不時地讚嘆這些文物現在已難得見到，他說他在天理大學這麼久也是第一次看到這麼多收藏品，若不是有台灣的研究者來訪問，平時要看這些寶物也不容易。館方表示很歡迎與台灣有更密切的學術性交流。

政大團隊拜會天理參考館山田常則副館長（右一），圖中為天理大學下村作次郎教授。
政治大学のグループが天理参考館の山田常則副館長（右端）を訪問、写真の中央は下村作次郎教授。（圖片提供：黃季平）

学の宣揚に大きな貢献してきた方である。

「天理参考館」（以下略称「参考館」）は天理教の二代真柱（天理教では教主を「真柱」と呼ぶ）であった中山正善氏によって設立された。参考館職員の説明によれば、設置した最初の目的は天理教の布教師が海外布教へ赴く前に、まず日本国内でこれらの収蔵品の陳列と研究を通じて、少しでも深く現地の民俗文化を理解しておくためであり、けっして高価で価値のあるものを収集、研究するものではない。それゆえにあえて「博物館」ではなく「参考館」と称しているとのことである。1世紀近く前に各地で採集されてきたこれらの民族学文物は、年月を経た今では、現地でももはや見ることができなくなっている。これら収蔵品は参考館での保存と研究の下で、すでに貴重な民族文化の資産となったものもある。参考館は自国の民族学資料以外に朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシア、オーストラリア、南アジア、中央アジア、北アジア、西アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパなどの地に及ぶ地域の文物を収蔵しており、その数はおよそ3万点あまりにのぼる。そのうち台湾原住民の文物は1,804点に及び、今回我々はその中の平埔族の文物を中心に調査した。

天理参考館所蔵の平埔パゼッヘ族の文物に出会う

参考館海外研究室の研究員太田三喜氏は我々が到着する前、あらかじめ数十点の平埔族文物を収蔵品倉庫の中から大きな部屋まで運びだし、我々がそこで作業できるように手配してくださった。下村教授も我々とともに文物を見学したが、滅多に出会えないこれらの収蔵品を目にして度々賛嘆していた。下村教授によれば、自身も天理大学に勤めて久しいが、これだけ多

政大原住民族研究中心

政大團隊拜會天理參考館，左起依序為黃季平老師、林雨佑、井手勇先生、下村作次郎教授、太田三喜研究員、林修澈主任、筆者、奥谷道弘先生。
政治大学グループの天理参考館訪問。左から順に黄季平先生、林雨佑、井手勇氏、下村作次郎教授、太田三喜研究員、林修澈主任、筆者、奥谷道弘先生。
（圖片提供：黃季平）

中午接受下村教授招待午餐後回到參考館繼續我們的文物調查工作。太田先生犧牲自己的午休時間，把上午看完的文物收起來，換上另一批文物，他的敬業精神實在令人感動又欽佩。這次我們所看到天理參考館典藏的平埔族文物當中，特別值得一提的是有幾幅畫作，是岸裡大社潘氏家族的潘士興及其母親——潘敦仔夫人的畫像，以及另有一幅是潘士興的兄弟潘士萬的行樂圖。此刻正在台北國立台灣博物館展出的「采田福地」平埔族文物特展當中，有一幅已修復完好的潘敦仔畫像，另外也同樣有一幅是潘敦仔的行樂圖。此外，還有平埔族的木製及石製神像、服飾織布等稀有的文物，都受到完好的保存。該館的收藏品來源，早期是由一位張姓天理教信徒所採集，所以藏品當中巴宰族的文物占了大多數。

調查工作團隊分工合作奮力完成拍攝與記錄的工作，不過仍然未能看完全部的收藏品。第三天我們繼續參觀天理參考館常設展示，館內是世界各地的民族文物展示。我們瀏覽了日本、韓國、台灣及亞洲各地的民族文物展示，由於下午另有行程，不得不結束參考館的訪問。

くの収蔵品を一度に見るのははじめてだとのことで、もし台湾の研究者が訪問に来ることがなければ、ふだんこれらの宝物を目にすることはなかなかできないだろうとおっしゃっていた。参考館側も、台湾との学術交流が更に深まっていくことを大いに歓迎すると述べられた。

お昼は下村教授に昼食をご招待いただいた後、参考館に戻って引き続き我々の文物調査の作業を続けた。太田氏は自分の昼休みを返上して午前中に見終わった文物を片づけ、別のいくつかの収蔵品を代わりに出してくださっていた。氏の勤勉さには感動させられ、敬服するばかりである。今回我々が見せていただいた天理参考館の平埔族文物の中に、特筆しておくべき何幅かの絵があった。それは岸裡大社の潘氏一族の潘士興とその母親——潘敦仔夫人の肖像画、および潘士興の兄弟である潘士万の行楽図である。時をほぼ同じくして台北の国立台湾博物館においても「采田福地」という平埔族の特別展が行われており、すでに修復が終った潘敦仔の肖像画一幅と、潘敦仔の行楽図が同様に展示されていた。それ以外にも参考館には平埔族の木製と石製の神像、服飾品や布織物など珍しい文物があり、すべて保存状態がよいものであった。当館の収蔵品の入手は早期のものは主に張という台湾の天理教信者が収集し、寄贈したものである。パゼッヘ族の文物は収蔵品の大多数を占めている。

調査グループは撮影や記録などそれぞれが分

政大原住民族研究中心

天理教神殿前合照。
天理教神殿の前で記念撮影。 （圖片提供：黃季平）

感謝天理教友的盛情交流

中午林修澈主任提議，要在天理教本部的食堂裡用餐，體驗天理教徒日常中奉行的儉約生活。當天與天理教友一起排隊領餐（一碗白飯配兩菜及味噌湯），我們以最虔敬感恩的心享用了這頓午餐，感恩這次為我們安排了高規格接待的所有天理友人們，期待後續有更密切的學術交流。◆

註1：在天理市內到處可見專為遠道參拜的天理教信徒住宿的場所，稱為「詰所」，是由各地的本部直屬教會出資興建。為因應每年在「返回原地（朝聖）」時期大量湧入朝拜的信徒，大多數的「詰所」都是通鋪式的簡易住所，也符合天理教過簡樸生活的教義。我們住宿的地方是屬於加拿大、巴西信徒所興建的詰所，是天理市內唯一設備俱全且房間寬敞的一處詰所，只有在特別的外賓來訪時才會安排到此。

担し全員が協力して、全力で作業を進めたが全部の収蔵品を完全に見終わることはできなかった。3日目我々は続いて天理参考館の常設展を見学した。館内には世界各地の民族文物が展示されており、日本、韓国、台湾及びアジア各地の民族の文物の展示を見学した。午後には別のスケジュールがあったため、参考館の訪問をここまでで終わらざるをえなかった。

天理教教友の厚情の交流に感謝

お昼に林修澈主任の提案で天理教本部の食堂で食事することとなり、日ごろ天理教信徒が実践している質素な生活の一部を体験した。その日我々は天理教信者の人々と一緒に並んで食事（白ご飯、おかず二品と味噌汁）を受け取り、私達は最も敬虔な感謝の心で、この昼食をいただいた。今回私達のために最高のもてなしをしてくださったすべての天理教教友の方々に心から感謝するとともに、今後更に密接な学術交流が続けられることを期待している。◆

注1：天理市内には至る所に、遠路はるばる参拝にやってきた天理教信者専用の宿泊施設があり、「詰所」と称されている。それらはほとんどが各地の本部直属教会が出資、建設されたものである。重要な祭典の時期には「おぢばがえり」（天理教では教会本部神殿のある場所で人類が創造されたと信じ、「ぢば」と称し、そこを訪れることは人類の故郷へ「帰る」ことだと考えられている）をする信者が各地より大勢やってくるため、多くの「詰所」はすべて大部屋式の簡易な宿泊施設であり、質朴な生活を重視する天理教の教義にも一致している。我々が宿泊したのはカナダ・ブラジル信者のために建設された詰所で、天理市内で唯一あらゆる設備を完備し、個室の部屋も広い詰所であり、外国からの信者や特別な客人が来訪する際に使用するものである。

政大原住民族研究中心